

平成 28 年 2 月 10 日  
勉強会配布資料

「若年者に対する刑事法制の在り方に関する勉強会」におけるレジュメ

埼玉県立大学 市 村 彰 英

- 1 現在の少年及び若年者に対する処分や処遇の現状と課題
  - 1) 家庭裁判所の少年審判：少年審判手続の社会調査や保護的措置の実情について（家裁調査官としての実務経験を踏まえて）
    - (1) 家庭裁判所の少年審判手続
      - ① 教育による再非行防止
      - ② 個々の少年の状況，課題に応じた処遇
    - (2) 家裁調査官の社会調査と保護的措置
      - ① 非行のメカニズムの解明と適切な処遇に向けた検討
      - ② 家庭裁判所における保護的（教育的）措置
      - ③ 「発達」と「家族関係」という視点からのアセスメント
      - ④ 保護者・家族に対する働きかけ
  - 2) 関係機関との連携と協働
    - (1) 調査過程での少年鑑別所との連携
    - (2) 少年単位の社会記録の重要性
    - (3) 各関係機関との連携，協働
- 2 現在の少年及び若年者の実情並びに彼らを取り巻く社会環境と，現在の少年及び若年者による非行・犯罪の状況について
  - 1) 現在の家族機能の問題について
  - 2) 現在の少年非行に観られる変化
- 3 少年法の適用対象年齢の引下げについて（研究者の立場から）
  - 1) 個別ケースへの取り組みと手当
  - 2) 思春期心性の程度
    - (1) 各少年により，思春期心性の激しさ，内容，期間が異なる
    - (2) 自立と依存とのバランス
- 4 推知報道の禁止について